

原 著

岡山県自然保護センターの「カヤツリグサ科」への追補

倉敷市立自然史博物館友の会 片山 久
岡山県自然保護センター 地職 恵*

Additions to “Cyperaceae in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center”

Hisashi KATAYAMA, *Society of Kurashiki Museum of Natural History*
and
Megumi CHISHIKI, *Okayama Prefectural Nature Conservation Center*

ABSTRACT

A study on floral diversity was conducted as part of the Okayama Prefectural Nature Conservation Center's biofacies investigation in 1993 and 1994. The first report listed 43 species and three varieties of Cyperaceae was published in “The Okayama Prefectural Nature Conservation Center Research Report” in 1996. This is a revision of the report. We added 15 additional species and six varieties of Cyperaceae. At present, “Cyperaceae in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center” are classified into 58 species and nine varieties.

キーワード：岡山県自然保護センター、カヤツリグサ科、フロラ。

はじめに

岡山県自然保護センターは、1991年11月に開所されて以来、身近な自然を見て、触れて、楽しみながら自然を学ぶことのできる施設として多くの人に利用されている。

センター内に生育するカヤツリグサ科植物については「岡山県自然保護センター生物相調査」の一環として、1993年から1994年にかけて実施された。その結果は岡山県自然保護センター研究報告の生物相調査報告書（楠原・西本，1996）にまとめられている。著者らは2007年5月から11月にかけて、センター内に生育するカヤツリグサ科植物の調査を行い、新たに追加すべき種を確認したので報告する。

なお、見分けが困難な種は、岡山理科大学星野

卓二教授と正木智美氏に同定をお願いした。ここに記して深謝する。

調査地の概要

センターは岡山県中部の東寄りにあたり、およそ北緯34度51分、東経134度3分に位置する。約100haの敷地は、花崗岩を母岩とする水はけの良い土壌で、アカマツの優先する二次林となっている。また周囲から水が集まるすり鉢状の地形のため、中心には約8haの農業用のため池がある。標高は200–300mで、年平均気温は12.3℃、年降水量は1,034mm（岡山県自然保護センター，1996）である。

開所時に休耕田を利用して造成された湿生植物園や虫の原っぱなどは、年月の経過と共に自然に近い環境になりつつある。また開所前には耕作が行われていたたんぼでは、その一部に稲やソバを作っており、たんぼのまわりの環境も維持されて

* 連絡先：fvbs5493@mb.infoweb.ne.jp

いる。

調査方法

カヤツリグサ科植物の多くは、湿地の日当たりの良い環境を好んで生育する。しかしヒメモエギスゲやヒメカンスゲなどはやや乾燥した場所に生育し、ナキリスゲなどはやや日陰の林縁を好むなど、その生育場所は多様である。そのため調査においては、センター内の多様な環境を踏査するように努めた。標本は主に片山が作成し、採集標本はセンターに保管している。

結 果

既報によりセンターのカヤツリグサ科植物は8属43種3変種が報告されている。

このたびの調査から、新たに15種6変種のカヤツリグサ科植物を確認した。その結果、岡山県自然保護センターのカヤツリグサ科植物は8属58種9変種となった。内訳は以下の通りである。

Carex 属では既報の16種1変種に、新たに5種4変種が加わり、21種5変種になった。*Cyperus* 属では既報の10種1変種に、新たに4種1変種が加わり14種2変種になった。*Eleocharis* 属では既報の3種に、新たに1種1変種が加わり4種1変種になった。*Fimbristylis* 属では既報の4種に、新しく3種が加わり7種になった。*Scirpus* 属では既報の5種に、新しく2種が加わり7種になった。

なお、*Lipocarpha* 属、*Rhynchospora* 属、*Scleria*

属においては、追加すべき種は認められなかった。

新しく加わったカヤツリグサ科植物の中からは、環境庁レッドデータブック（環境庁、2000）及び岡山県版レッドデータブック（岡山県生活環境部自然環境課、2003）に該当する種は見られなかった。

引用文献

- 林 弥栄・平野隆久、1989. 山溪ハンディ図鑑 1. 山と溪谷社、東京.
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子、2002. 岡山県スゲ属植物図譜. 山陽新聞社、岡山.
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子、2003. 岡山県カヤツリグサ科植物図譜. 山陽新聞社、岡山.
- 環境庁、2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物、植物Ⅱ. 8 pls. +429pp. 環境庁自然保護局野生生物課.
- 岡山県生活環境部自然環境課、2003. 岡山県版レッドデータブック. 12pls. +465pp. 岡山県.
- 岡山県自然保護センター、1996. 気象観測資料（平成8年）. 岡山県自然保護センター年報第5号平成8年度：37.
- 米倉浩司・梶田忠、2003-. BG Plants 和名-学名インデックス, http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2007年11月30日).

岡山県自然保護センター「カヤツリグサ科」植物の目録への追補

本目録の和名、学名は BG Plants 和名-学名インデックス(米倉浩司・梶田忠2003-)の標準名とし、種の配列は学名のアルファベット順とした。目録へは和名、学名、採集地、採集年月日、標本番号の順で記した。採集者名は標本番号の前に次の略号で示した；hk：片山 久，opncc：地職 恵。使用した標本は、岡山県自然保護センターの標本庫に収蔵されている。

マスクサ	<i>Carex gibba</i> Wahlenb. 湿生植物園 2007-v-17 hk-20805 (写真1)
ミセンアオスゲ	<i>Carex leucochlora</i> Bunge var. <i>horikawae</i> (K.Okamoto) Katsuyama 丹頂舎付近 2007-v-17 hk-20797
タチスゲ	<i>Carex maculata</i> Boott 湿生植物園 2007-v-17 hk-20803 (写真2)
ホシナシゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i> Miq. var. <i>levisaccus</i> Ohwi 湿生植物園 2007-v-17 hk-20813
ノゲヌカスゲ	<i>Carex mitrata</i> Franch. var. <i>aristata</i> Ohwi 職員駐車場付近 2007-v-17 hk-20818
シバスゲ	<i>Carex nervata</i> Franch. et Sav. 湿生植物園 2007-v-17 hk-20804 (写真3)
オタルスゲ	<i>Carex otaruensis</i> Franch. 湿生植物園 2007-v-17 hk-20807 (写真4)
クサスゲ	<i>Carex rugata</i> Ohwi 湿生植物園 2007-v-17 hk-20810
ヒメモエギスゲ	<i>Carex tristachya</i> Thunb. var. <i>pocilliformis</i> (Boott) Kük 丹頂舎付近 2007-v-17 hk-20796
アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> (Rottb.) Hassk. var. <i>brevifolius</i> 休憩広場 2007-x-13 hk-21678
ヒメアオガヤツリ	<i>Cyperus pygmaeus</i> Rottb. 田尻大池西岸 2007-x-13 hk-21683
ヒナガヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i> R.Br. 田尻大池北岸 2007-xi-09 opncc-20201 (写真5)
ウシクグ	<i>Cyperus orthostachyus</i> Franch. et Sav. 休憩広場 2007-x-04 hk-21605
シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i> (Ohwi) Ohwi 田尻大池西岸 2007-x-13 hk-21660 (写真6)
オオハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> D.Don var. <i>congesta</i> 野草園 2007-x-04 hk-21602
シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i> Boeck. 虫の原っぱ 2007-x-04 hk-21598
ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i> (L.) Roem. et Schult. 駐車場 2007-x-04 hk-21610
ノテンツキ	<i>Fimbristylis complanata</i> (Retz.) Link 休憩広場 2007-x-04 hk-21606
クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyloides</i> Makino 休憩広場 2007-x-13 hk-21679
イヌホタルイ	<i>Scirpus juncooides</i> Roxb. 野草園 2007-x-04 hk-21603
サンカクイ	<i>Scirpus triqueter</i> L. 湿生植物園 2007-x-13 hk-21672

ホタルイ属については「BG Plants 和名-学名インデックス」では *Schoenoplectus* を標準学名とし、*Scirpus* を synonym にしている。本報告では既報のホタルイ属との混乱を避けるため、既報に準じて *Scirpus* で報告した。



写真1. *Carex gibba* マスクサ
林縁や道端など湿った場所に普通な多年草。匍匐枝はない。小穂は雌雄性。



写真4. *Carex otaruensis* オタルスゲ
渓谷や湿地に生える多年草。大株となり稈は著しくざらつく。



写真2. *Carex maculate* タチスゲ
山地の湿った場所に生える多年草。植物体全体が粉白色に見える。



写真5. *Cyperus flaccidus* ヒナガヤツリ
湿った場所に生育し、やわらかくて特に小型の一年草。鱗片の先端の芒は外側に開出する。



写真3. *Carex nervata* シibasage
道端や草地に生える小型の多年草。長い匍匐枝があり大株にならない。



写真6. *Cyperus pacificus* シロガヤツリ
湿った場所に叢生するやわらかい一年草。花序は頭状、花序枝はない。